

# IMF サーベイ

世界経済見通し

## 政策措置により世界経済の見通しは改善

2013年4月16日



中国・遼寧省大連の製鋼工場で働く労働者：IMFは最新のWEOで、世界経済の回復速度は三極化すると予測。この回復は中国をはじめとする新興市場国・地域が牽引している。（写真: China Daily/Reuters/Newscom）

- IMF、世界経済成長率は、2013年は3.3%、2014年は最大で4%と予測
- 均衡を欠く先進国・地域の回復：民需の改善、米国がユーロ圏より速い
- 途上国および新興市場国・地域が、世界経済の成長を引き続き牽引

国際通貨基金（IMF）は、世界経済は引き続き徐々に改善するとの見込みを示した。2013年は3.3%、2014年は4%という最新の経済成長見通しが発表されたが、一方で、従来の危機が依然として残るなか新たなリスクも顕在化するなど、政策当局は手を緩めることがあってはならない。

過去6ヶ月間で世界経済の状況は改善した。先進国・地域の政策当局は、世界経済の最大の短期的リスクのうちの二つ、すなわち、ユーロ圏の崩壊の危機と米国の急激な財政収縮を回避することができた。IMFの最新の**世界経済見通し（WEO）**によると、金融市場はこれに呼応し持ち直し金融の安定性も改善した。

同報告書は、2013年の世界の実質GDP成長率を、2012年の3.2%とほぼ変わらない年平均ベースで3.3%と予測している。2014年は成長率は4%まで上昇する見込みである（下記の表を参照）。今年の成長見通しは概ね変わらないと予測した背景についてWEOは、先進国・地域の全てが金融市場及び信認の改善に見合った恩恵を受けているわけではない状況があると説明した。また、一部の国で見られる財政のブレーキも重要な要因だった。

オリビエ・ブランシャール IMF チーフ・エコノミスト兼調査局長は「これまで回復スピードは二極化していたが、三極化へと姿を変えた」と述べた。同氏率いる調査局がWEOを作成した。「新興市場及び途上国・地域は引き続き力強く成長しているが、先進国・地域では米国とユーロ圏の間の差が一段と広がりつつあるようだ」

- **米国の民需は、クレジット市場と住宅市場の回復に伴い力強さが見られるようになった。**しかし、当初の予測以上に大規模な財政調整により、2013年の実質GDP成長率は約2%にとどまると見られる。
- **ユーロ圏の実質GDP成長率は、今年約0.25%縮小した後2014年には再び伸びを見せると予測される。**与信チャンネルが毀損している。金融状況は改善したものの、銀行が依然として低収益率と低資本により苦境にあることから、これが企業や家計に伝わっていない。財政調整が継続され、また競争力の問題やバランスシートが弱体化していることなどが、ユーロ圏の成長のその他のブレーキとして考えられる。
- **日本では、新たな財政及び金融刺激策が経済活動の回復を後押しし、2013年の実質GDP成長率は1.5%に達する見込みだ。**

2013～14年にかけて、先進国・地域の間のような差は縮小するだろう。最新のWEO報告書は、政策当局がコミットメントを完遂すると仮定し、実体経済にかかるブレーキが引き続き改善され、先進国・地域の実質GDP成長率は2013年後半から力強さを増すとの見通しを示している。

**新興市場及び途上国・地域**の成長は引き続き力強く2012年の約5%から2013年は5.25%、翌14年には5.75%に達する見込みだ。こういった国や地域の大半の経済活動は2012年に鈍化したのが既に勢いを増している。その背景には消費者需要が底堅く、マクロ経済政策で下支えしており、輸出が回復したことがある。欧州新興国の回復は、欧州先進国の需要の回復にしたがい加速するものと思われる。一方で、中東及び北アフリカの一部は、国内で進む難しい移行への対応に苦しんでいる。

### 改善したリスクバランス

WEOは、欧州と米国の直近の政策措置により短期的なリスク展望は改善したとしたが、リスクは依然として残っている。ユーロ圏の回復は、調整疲れ、弱体化したバランスシート、周縁国での与信チャンネルの毀損、および経済・通貨同盟の強化への進捗が不十分であることから、予測より緩慢になる可能性もある。米国では、自動的な支出削減（一律歳出削減）による予測以上の大規模な財政調整や、債務上限の引き上げの失敗などが、成長のより大きな足かせになる可能性もある。

しかし、中期的には、リスクバランスは引き続き下振れとなっている。米国と日本では強固な財政健全化計画の欠如、ユーロ圏では低成長期間の長期化を招きかねない、巨額の民間債務、限られた政策措置と制度面での進捗の遅れ、主な先進国・地

域では非伝統的かつ緩和的な金融政策による歪み、多くの新興市場及び途上国・地域では、過剰投資や資産価格の高騰などが懸念の中心となっている。

### 堅調な成長には安定化が不可欠

以上のようなリスクを前に、同報告書は、政策当局は手を緩めることはできないと強調している。総じて、大半の先進国・地域では、巨額のソブリン債に起因するリスクが財政政策遂行の余地を限られたものにしており、財政調整は当面、需要に対するダメージを抑制するために段階的に進めなければならない。ゆえに、金融政策により民需を引き続き支えなければならず、金融部門政策は金融政策の波及を高めるように策定される必要がある。米国と日本には、包括的な中期赤字削減計画の策定・実施という課題が残っている。特に日本については、公的債務水準が極めて高いなかでの財政刺激策の再開に付随するリスクが極めて大きいことから、これは喫緊の課題である。多くのユーロ圏の国については、競争力の再構築と中期的成長見通しの押し上げのための構造改革が重要であり、経済同盟を完全な形にするためのアーキテクチャ改革の一層の推進も不可欠である。

新興市場及び途上国・地域については、WEOは政策の引き締めとバッファの再構築が必要だと強調している。引き締めは金融政策から着手すべきであり、必要に応じて金融部門で表面化しつつある行き過ぎを抑制するため、健全性措置で支える必要がある。さらに財政収支の水準は、今後成長がトレンドを下回った場合に政策を遂行するための十分な余地（バッファ）を確保できるまで戻す必要がある。

### 関連リンク:

- [WEOを読む](#)
- [予測：全文](#)
- [ビデオ：ブランシャール](#)
- [ラガルド：スピードが三極化した回復](#)
- [ラガルド：スピーチを読む](#)
- [インフレは安定的と予測](#)
- [低所得国](#)

## 最新のIMF経済見通し

IMFは、先進国・地域の回復は平坦ではないが、新興市場及び途上国・地域は勢いを増すと予測。

(変化率、%)

	見通し				2013年1月 WEO見通し からの変化	
	2011	2012	2013	2014	2013	2014
世界経済成長率	4.0	3.2	3.3	4.0	-0.2	0.0
先進国・地域	1.6	1.2	1.2	2.2	-0.1	0.1
米国	1.8	2.2	1.9	3.0	-0.2	-0.1
ユーロ圏	1.4	-0.6	-0.3	1.1	-0.2	0.0
ドイツ	3.1	0.9	0.6	1.5	0.1	0.0
フランス	1.7	0.0	-0.1	0.9	-0.4	0.0
イタリア	0.4	-2.4	-1.5	0.5	-0.4	0.0
スペイン	0.4	-1.4	-1.6	0.7	-0.1	-0.1
日本	-0.6	2.0	1.6	1.4	0.4	0.7
英国	0.9	0.2	0.7	1.5	-0.3	-0.3
カナダ	2.6	1.8	1.5	2.4	-0.3	0.1
その他の先進国・地域	3.3	1.8	2.5	3.4	-0.3	0.1
新興市場及び途上国・地域	6.4	5.1	5.3	5.7	-0.2	-0.1
中・東欧	5.2	1.6	2.2	2.8	-0.3	-0.4
独立国家共同体	4.8	3.4	3.4	4.0	-0.4	-0.1
ロシア	4.3	3.4	3.4	3.8	-0.3	0.0
除ロシア	6.1	3.3	3.5	4.6	-0.8	-0.1
アジア途上国	8.1	6.6	7.1	7.3	0.0	-0.1
中国	9.3	7.8	8.0	8.2	-0.1	-0.3
インド	7.7	4.0	5.7	6.2	-0.2	-0.1
ASEAN-5 <sup>1</sup>	4.5	6.1	5.9	5.5	0.3	-0.2
ラテンアメリカ及びカリブ諸国	4.6	3.0	3.4	3.9	-0.3	0.0
ブラジル	2.7	0.9	3.0	4.0	-0.5	0.1
メキシコ	3.9	3.9	3.4	3.4	-0.1	-0.1
中東及び北アフリカ	3.9	4.7	3.1	3.7	-0.3	-0.1
サブサハラアフリカ	5.3	4.8	5.6	6.1	-0.2	0.4
南アフリカ	3.5	2.5	2.8	3.3	0.0	-0.8

出所：IMF2013年4月世界経済見通し

<sup>1</sup>インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム